



東友枝曾根遺跡の土偶

現在九州国立博物館において常設展示されている。これまで発見された土偶がすべて破損したものであることから、祭祀行為の際に意図的に壊されたと考えられている。妊婦を模した土偶は、寿命の短かった縄文人の新たな生命の誕生の願いが想像される。



東友枝曾根遺跡全景

36軒の竪穴住居跡が発見されている北部九州縄文後期を代表する大規模集落である。現在は一部盛土保存され水田となっている。福岡県内で1つの遺跡から確認された土偶の点数では本遺跡が最も多い。

下唐原寺前遺跡出土サル頭蓋骨

下唐原にある寺前遺跡では、他にイノシシやシカ等の哺乳類や蛤、アサリ等の貝類が出土している。



上毛町の縄文時代

およそ一万二千年前の縄文時代になると、縄文人たちは土器を使い始め、狩猟・漁労による動物の捕獲、植物採集などで食料を求める生活を送りました。自然環境を利用した罠や、狩猟・漁労道具の改良によって動物捕獲を効果的に行い、狩猟の対象はシカ・イノシシをはじめ、ムササビ・サルなどの哺乳類全般にわたりました。しかし、狩猟・漁労や植物採集を中心に食料資源を確保していた縄文人にとって、資源の枯渇は深刻な問題でした。このため、狩猟や漁労を始める際に豊かな恵みと安全を祈願する祭祀が行われていました。自然への祈りは、限られた技術で自然の恵みだけを頼りに生き残っていくのがいかに大変で不安定だったかを物語っています。

上毛町の縄文遺跡からも動物を捕獲するための弓

上毛町の縄文時代

こうげのみどき
上毛町土記

Vol. 60

矢の鏃や罠として掘った落とし穴、祭祀に使用した土偶が数多く確認されています。実際、町内の遺跡だけで、福岡県全体の半数以上にあたる合計約五〇点もの土偶が出土しています。特に東下で調査を行った縄文後期(今から四〇〇〇年前頃〜三〇〇〇年前頃)の東友枝曾根遺跡では、三〇基以上の竪穴住居跡や土偶・石棒が出土しており、縄文後期を代表する大規模集落として位置付けられています。

弥生時代になると、大陸・朝鮮半島から稲作文化が伝わり、米づくりという新しい生活基盤を作っていきます。水稲農耕の生産性の高さは、日本の歴史を転換させた重要なものでしたが、水稲農耕の定着にも、一万年も続いた縄文人の自然環境を利用する経験が役立ったと考えられます。

参考文献

今村 啓爾「縄文の豊かさ」と限界」山川出版社 二〇〇二

総合窓口課文化財保護係 佐藤 信



フラワーアレンジ

みんなで楽しむ
フラワーアレンジに。

私たち「フラワーアレンジ」は5人のグループです。月に一回、光林寺でお花を楽しんでいます。

町の文化祭には毎年、野の花、庭の花をアレンジして出展しています。10月の下旬から、みんなで「今年はどんな感じでしょうか」と和気あいあいと相談をして、アイデアを出し合っています。山を歩き、野を歩き、花材集めをしていますが、回を重ねる度に大作となり、私たちだけでは力が及ばず、昨年からの力仕事はご主人方にも応援してもらっています(感謝)。

また、観てくださる方々から「今年も素晴らしいね」「毎年楽しみにしているよ」と温かい声をかけていただくのが嬉しくもあり、励みにもなっています。これからも、お花を楽しんでいきたいと思っています。

●問い合わせ先
渡辺早苗さん TEL 72-3450



上毛町
フォトクラブ

身近な写真を通じて
みんなで楽しんでいます。



平成15年から12名で活動を開始し、自分たちで撮影したもの(当時はデジカメを使用せず、プロビエ、ベルビアのフィルムが主流)を持ち寄り、映写会等で楽しんでいます。

しかし、それだけではメンバー同士の楽しみで終わってしまうので、げんきの杜の図書館前と浴場前に掲示するようにしました。掲示する写真は、3〜6カ月ごとに掛け替えています。もちろん文化祭のときにも一人3点の展示を行っています。

現在、メンバーは11名で、立ち上げ時に比べると大幅に入れ替わりしましたが、上毛町広報の表紙を担当したり、それぞれが楽しみながら活動しています。

2〜3年前に、一般からのメンバー募集も兼ねてデジカメ教室を開催しました。そろそろもう一度教室を開きたいと思っています。深く考えなくても身近なところで撮影し、みんなで楽しみたいと思っていますので、気軽にお声をかけてください。

月例会 げんきの杜 陶芸室
毎月第2日曜日13時30分〜15時30分

●問い合わせ先
奥田尚志さん TEL 090-1085-5605

環境ポスター入選作品



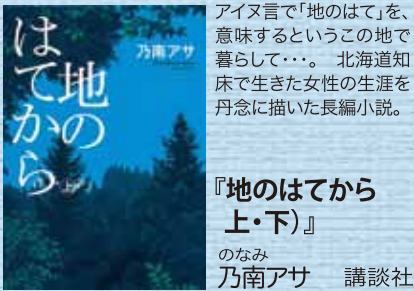
西吉富小 5年 ながお 長尾 紗羅
築上東中学校 2年 こもり 小森 優花

環境標語入選作品

しらぬうち	あなたの行動	環境はかい
南吉富小 5年		とうばる 唐原 逸希
すてるゴミ	知恵と工夫で	リサイクル
築上東中学校 1年		やすえだ ちさ 安枝 知咲

図書館だより

げんきの杜図書館
TEL 72-1633



アイヌ言で「地のはて」を、意味するというこの地で暮らして…。北海道知床で生きた女性の生涯を丹念に描いた長編小説。

『地のはてから 上・下』
のなみ 乃南アサ 講談社



5歳まで施設で育ち、奈良の尼寺に養女に迎えられた櫻香。中学生になった彼女の周りで次々に不審な出来事が!謎を追って浅見光彦は鳥羽へ向うが…人間の愛と業を描いたミステリー。

『風のなかの櫻香』
内田康夫 徳間書店

新着	誇り	今野敏(他)	双葉社
	空白の五マイル	角幡唯介(かくはた、ゆうすけ)	集英社
	親は知らないーネットの闇に吸いこまれる子どもたち	読売新聞社会部	中央公論新社
	平野レミの、キュートでおいしい野菜レシピ	平野レミ	講談社
	離乳食全百科、はじめてのひと口からの作り方	小池澄子	GaKKen

第1回上毛町文化協会芸能発表会

文化協会芸能部会員による多彩なステージをお楽しみください。
●問い合わせ先 教務課 社会教育係 TEL 72-3111(内線173)

日時 2/20 [日] 10:00 開演
会場 げんきの杜 多目的ホール

観覧
無料